今、当院の災害対策は

日本は自然災害が最も多い国の一つとされています。私は先の大戦以来物心ついてから台風による風水害の他は、地震・津波による被害など予想だにせず、自然災害についての知識とその対策の教育を受けたこともありませんでした。透析医療に携わり始めて20年間は、不慮の停電・渇水には関心があったものの、地震・津波による被災や無限の平和エネルギー供給とされてきた原発の事故による放射性物質の散乱は、全く念頭になかったのです。

しかしながら20年前の阪神淡路大震災、10年前の新潟県中越地震、福岡県西方沖地震、頻発する東北地方での地震と風雪被害などが起こり、地域機能不全は元より透析絡みの被害の対策が迫られています。東日本大震災はその規模の大きさと津波による甚大な被災、そして人災ともいえる福島第一原子力発電所事故の放射能被害は、いかに日本人が揺れ動く大地で暮らしているのかを再認識させられました。

現在の自然災害に対する認識度を推し測るためにも「経験に学ぶ透析医療の災害対策」を、是非ご一読いただきたいと思います。

建物の耐震基準や日頃の設備の点検・訓練、災害発生時の行動と確認事項、災害時に施設治療が可能であるかの判断、自施設の対策(自らで自らを守る「自助」)と行政の取り組み(国・公共団体が準備する「公助」)、加えて地域拠点病院としての取り組み(近隣との協力による「共助」)などが分かり易く書かれています。

災害は忘れた頃にやってくる。

自家発電や自水確保・免震で慢心してはいけない。

今、私達はすることがあるのではないか。

平成27年9月25日

はまゆう会会長　市丸喜一郎

(校正：椎葉)

参考書：山川智之編『経験に学ぶ　透析医療の災害対策』医療ジャーナル2015.大阪

(本館4階ロビー　私の本棚)